

まちの話題



めったにない機会に皆さん釘付けです

希望の家で そば打ち体験

希望の家を皆さんご存知でしょうか。現在の役場浜町事務所近くにあり、障がいを持った方の自立支援を行っています。障がいといっても人それぞれで、目に見える障がいから、一見するだけでは全く分からない障がいがあります。現在、普段は自宅と希望の家の行き来以外で、なかなか外の社会に触れることが少ない施設利用者。今回、さつまの力を借り、そば打ちの体験を実施しました。

昼前に始まった体験はまず、おむすび作りから。それぞれ自分たちの昼食分を自分たちで準備。その後、さつまの岸本さんが打つそば打ちを実際に見学。普段めったに見る機会がないそば打ちを目の前で見た利用者は、一つ一つの行程に歓声が上がっていました。



自分の分のおむすびをにぎりました

馬見原東部 老人クラブの恒例花見

4月23日、馬見原東部老人会の花見が開催されました。会場となったのは、宮崎県との県境にほど近い岩尾野地区の遅咲き八重桜の木の下。各家庭から自慢の手作り料理などを持ち込み、満開となった八重桜を見ながら、楽しくお酒を酌み交わしました。代表の古川会長は「これからずっと続けていくつもりです。来年も綺麗な花を咲かせてくれることを願っています。」と話され、最後は万歳で締めくくりました。



八重桜の下で花見を楽しみました

明光保育園で 元気みそづくり

4月25日、明光保育園で味噌づくりの体験がありました。今年で3回目となるこの味噌づくりは女性部矢部支部下支部班の協力のもと行われているものです。当日は年長児さんが女性部の皆さんと一緒に、大豆をすり鉢に入れ、こねたり、団子の形にしたりして、味噌づくりを楽しみました。味噌は「明光元気みそ」と名付けられ、最後に「おいしくなれ！」と皆で声を掛け、桶の中に味噌を投げ込みました。これから半年程寝かせた後、給食にも利用されます。



すりこぎで大豆をすりつぶします

馬見原追分唄まつり

4月29日、馬見原公民館において、馬見原自治振興区主催の第7回民謡「馬見原追分唄まつり」が開催されました。県内はもとより宮崎県からも多くの参加があり約130名が三味線や尺八に合わせ自慢ののどを披露しました。最優秀賞は、熊本市の友田豊子さんが受賞され、副賞には馬見原産の米10キロが贈られました。そのほか、馬見原にちなんだ「牡丹賞」や「追分賞」「白壁賞」など15点の賞が贈られました。当日は、馬見原の商店街もぼたん祭りが開催され終日賑わいました。



少女神楽奉納

4月3日、五穀豊穡と無病息災を祈る男成神社の祇園大祭が行われました。氏子たちや地域の方々が多数見守るなか、少女神楽が奉納されました。舞いを奉納したのは地元御岳地域の小中学生の子どもたち。練習期間は春休みになってからと短期間にもかかわらず、古式ゆかしい荘厳な舞いを扇や鈴をもち優美に奉納しました。当日はあいにくの雨模様でしたが、平日にもかかわらず多くの見物人が神楽を観覧していました。また、地元竜宮太鼓の奉納のほか、午後からは井上京子劇団による芝居の上演もありました。



高畑年祢神社 御田植え祭

5月3日、高畑年祢神社で五穀豊穡を祈願した神楽と田植え踊りが奉納されました。年に一度、神様が神殿から出て、外の世界を楽しみます。今年も、高畑神社神楽保存会のメンバーによる神楽の奉納はたまには笑いありの神聖な奉納会となりました。また、小・中学生が田植えの衣装を身に纏い、田植え神事も行われました。この田植え神事はあぜ切りから田植えまでの一連の流れを踊りにしたもので、途中の荒起こしなどでは牛に扮した子どもたちが縦横無尽に走り回り会場の笑いと大きな拍手をもらっていました。



小山和作先生の 講演会が開催

4月13日、千寿苑において日赤熊本健康管理センター名誉所長 小山和作先生の講演会が開催されました。この講演会は、小山先生が健康予防医学でも權威のある日野原賞受賞を記念して行われたもので、「大地に根ざす人と命」と題して自然界と命の繋がり、命の尊さについてお話されました。会場には、町内外から、200名余りの参加者があり、先生の話に聞き入っていました。



山和作先生日